

臨時幹事会 議事録

作成：玉井 晃平（神戸大学 3）

日時：平成 29 年 8 月 5 日（土）17:30~22:10

於：京都大学吉田南構内 吉田南 4 号館 14 号室

出席者（敬称略）： の欄はオブザーバー参加者である。

氏名	役職	所属・学年
遠藤 匠真	幹事長	大阪大学 3
山本 明史	事務局長	京都大学 3
田中 創	競技部長	大阪大学 3
布施谷 綺子	広報部長	奈良女子大学 2
秋山 周平	諮問委員長	大阪大学卒
松永 佳大	京都大学渉外	京都大学 3
稲岡 雄介	大阪大学渉外	大阪大学 3
玉井 晃平	神戸大学渉外	神戸大学 3

議題：

今年度スプリントセレクションにおける競技公正性並びに代表選手選考の適正性に関する幹事会の見解、およびそれに基づく対策案の決定

次頁より議事録

議事録：

発言者(敬称略)	発言内容など
	<p>1. 資料の読み合わせによる認識の共有・確認、意見募集</p> <hr/> <p>臨時幹事会が招集されるに至った経緯と、今回のスプリント・セレクション（以下スプリントセレ）の問題点や解決案の骨子、受理した陳情などについて記載された、『臨時幹事会での検討事項要覧』[添付資料]を参加者で読み合わせた。この資料には作成者遠藤の個人的見解も多々含まれることから、基本的認識の共有、議論の前提条件の確認を行った。また、並行して資料中の誤りの指摘・訂正も行われた。</p> <p>これらの詳細な過程は、当該資料中に追記して示したものを添付することとする。</p> <p>その後は自由な意見を募り、資料ではフォローしきれなかった多様な問題点を列挙した。</p>
遠藤	認識が共有できた上で、とりあえず皆さんの意見を聞きたい。ただの印象のようなものでも構わない。
田中	意見というか些末な問題の指摘であるが、仮に再セレクションを行うとして、今回の播磨中央セレに不参加だったのに再セレには参加する人が出てくるかもしれない。この場合どうするのか。
遠藤	播磨中央セレが無事に終了していれば通過し得なかった選手が再セレで通過する可能性が出てくるし、それは適当とは言えない。 再セレには何らかの参加資格が必要となりそうだ。
稲岡	今回のセレでは当初、立ち入り禁止ルートの通過によって失格者が多く出た。公式成績表ではその失格が取り消されたが、この場合立ち入り禁止を見逃した人が大勢セレを通過することになる。これはいかがなものかと思う。
遠藤	こういった感想で構わないので皆さん意見を出してみしてほしい。
山本	仮に再セレを行うとして、先日のセレに参加こそしていたものの、普通に落ちていたはずの人が運よく再セレで復活することが考えられる。例えば、当日にふらふらで体調が万全から程遠かったがセレに参加した人と、やむを得ない事情でセレを欠席した人の間に差ができるのはおかしくないだろうか。
遠藤	現実にはそのような問題があることには深く同意する。しかしセレに向けて然るべき準備をしていたかという基準を設けるのは極めて困難で、仮に再セレを行うのなら、その参加条件は播磨中央セレへの参加ということにするほかない

と思われる。

布施谷

WA についてであるが、問題となったレッグの影響が MA と比べて小さいと思われる。再セレを実施するほどではないのでは。

遠藤

必要性の薄さに加え、女子に関しては京女からの陳情などにもあるように、日程上の都合から再セレの実施ハードルが男子よりも高い。

田中

そもそも今回のセレクションにおいては、競技不成立となる以前から完走率の低さが問題となっていた。競技が成立していたとしてもこの臨時幹事会が招集されていた可能性が高い。

遠藤

確かに、大会当日の大量 DISQ 発覚時点で運営責任者の秋山さんと私で協議を行っていた。DISQ そのものについての討議も必要だろう。

※以後”DISQ”とは、競技不成立の原因となった[711 立入禁止のルート]の使用されたレッグにおいて付与された DISQ を意味し、その他の理由による失格については失格のまま取り扱うことを前提とする。

松永はどうか。

松永

資料中に記載された、今回のタイムを活用する方法はどれも一長一短で、何の問題もない解決策が存在しないように思う。

資料にはタイムの直接編集が特に適切でないとあるが、詳しく説明してほしい。

遠藤

今回問題となったレッグは一か所であるが、このレッグがレース全体に及ぼす影響は多岐に及ぶ。もちろんほとんど影響がないとできることも多いだろうが、どのレベルまでの影響を考慮し、無視するのかという判断には一定の基準が必要である。このタイム編集の際に参照される基準を、セレクション対象者でもある学連幹事が決定することは認められるのかという大きな問題がある。また、『調査依頼への回答』の過程で、タイム処理による順位付けの方法は実行委員会によって再三検討されており、厳密なタイム比較は不可能であるというのは既に結論が出ている。

田中

具体的な例として、件の×印を通った選手は 20~30 秒程のショートカットを行ったと思われるが、もし×印に気づいた場合に想定ベストルートの地下道の存在に気づくとは限らない。北回りすることによって 4~5 分のミスをしていたかもしれない。こうした極端な例もある中でタイムの適切な編集は難しい。

山本

全く別の問題であるが、今回のセレ当日、セレ対象者の中でトップゴールだった自分が会場に戻った時、未出走のセレ対象者が残っていた記憶がある。自分のペナチェックの様子を見て何か察した可能性も否定できない。

遠藤

それは山本の証言だけで採用できるものではないが、似たような調査依頼に対

<p>秋山</p> <p>遠藤</p> <p>遠藤</p> <p>秋山</p> <p>遠藤</p>	<p>して実行委員会が疑義を認める回答を出していた。</p> <p>あれは一般参加者とセレ対象者の比較であるから全く同じものではないが、セレ対象者の間でも同様の不公正が存在した可能性は否定できないように思う。</p> <p>これはどちらかという今回のセレ結果を活用することに対する疑義であると捉えられるだろう。</p> <p>他に意見はないだろうか。</p> <p>→現役生から特に意見は出なかった。</p> <p>一通り意見が出たが、諮問委員長として秋山さんから何かないだろうか。</p> <p>個人的には、再セレ実施の有無に関わらず、今回のセレの結果は DISQ も含めて何らかの形で活かすべきであると考えており、(資料中の)C 案などは比較的良好な方法だとは感じるが、どの案を採用しても恣意性を完全に排除できないのは確か。</p> <p>議論を先に進めるにあたって、今回のセレの記録をどのように採用するかを決定するのがよいのではないか。</p> <p>それでは具体的な方針の討議に移っていきたいと思う。</p>
	<p>2. 今回のセレクション結果の活用方針</p> <hr/> <p>今回のセレクション結果について、何らかの形で採用するか、全て破棄するかについて討議し、前者を採択することとなった。その後、競技不成立確定後の公式成績表では取り消された DISQ を、どのように処理すべきかの議論がなされた。</p>
<p>遠藤</p> <p>田中</p> <p>遠藤</p> <p>田中</p> <p>遠藤</p>	<p>選択肢としては何があるだろうか。</p> <p>DISQ が取り消される前の速報記録を尊重する、DISQ 取り消し後の公式記録を尊重する、どちらも採用しないの三択である。</p> <p>どちらも採用しない場合は、再セレもしくは全ての枠を推薦枠として諮問委員会に丸投げする形になる。今回のセレの記録を採用する場合は、既に出ているようにタイム編集の恣意性の問題が難しい。</p> <p>しかし陳情にあったような、今回のセレに照準を合わせて好成績を残した人への配慮を考えるならば、今回のセレの記録は何らかの形で採用しなければならない。</p> <p>そもそも陳情を見る限りでは、ゼロベースでの再セレが望まれているとは思えない。</p> <p>それもある。</p>

	<p>それでは、今回のセレの記録を全て破棄し、ゼロベースで考える方針は取らないということでしょうか。今回のセレの結果は活かすこととしたい。</p>
全員	同意する。
遠藤	<p>次に問題となるのは、速報記録か公式記録かである。すなわち DISQ は外して考えるべきか、それとも残すべきか。ちなみに DISQ を外した時に恣意的な判断の介在なしにタイムを比較できないというのは何度も確認している。また、DISQ を残せば、資料の読み合わせで説明したように代表選手選考として適正であったのかという議論に陥る。これに判断を下すのも恣意性の高いことと言わざるを得ない。</p> <p>個人的には、当日に1件の調査依頼もなかったという事実から、少なくとも大会の場においてはあの711の記号が立入禁止を表すものであるという認識が選手間で共有されていたと捉えている。この場合 DISQ は残すべきで、速報記録が尊重されるべきだということになる。これは実行委員会の対応と異なってしまいがそこはどうか。</p>
秋山	<p>運営者としては、あのような疑義が生じた際には調査依頼の内容を棄却するか認めるかのいずれかの結論を出さざるを得ず、そこに折衷案はない。今回は図式違反ということで DISQ を取り消す対応をとったが、セレクションとしての取り扱いにおいて別の判断が下されること自体は問題ないと思われる。</p>
山本	<p>今回の大量 DISQ 問題は、図式違反がなかったとしてもこのように臨時幹事会で対応が検討されたはずである。そう考えると、競技不成立後の公式記録ではなく、問題発生時の速報記録を尊重すべきであると考えられる。</p>
田中	<p>速報記録では、セレ対象者中2~11位相当の選手が DISQ となっている。紛らわしい×印が表記された10→11の1レグのみでこれだけの選手に影響が及んでおり、速報結果をそのまま採用してしまうことは単にセレクションが適正であったか否かの問題にとどまらないと考える。関西学連の損失になると言ってもよい。</p>
布施谷	<p>セレ通過に食い込みそうなタイムの人を選び出し、その集団に対して DISQ 取り消しを検討してはどうだろうか。</p>
遠藤	<p>結局それは”食い込みそうな人”のラインを我々が判定することになり、実質セレ通過ラインを決めていることに他ならない。この種の恣意性は全面的に排除するのが前提とすべきであろう。</p>
秋山	<p>男子に関しては人数の観点からそのような処理が有効であると思われるが、やはり厳密な意味で恣意性を排除するのは不可能である。どの方法でタイムを編集するかによって通過者が変動してしまう。</p>

<p>田中</p> <p>遠藤</p>	<p>例えば DISQ を取り消したとして、MA における伴(京都大学 3)や WA における佐野(京都女子大学 3)は、×印を迂回した不利な状況であるにもかかわらずトップである。これは間違いなく通過としてよいだろう。</p> <p>先に述べた救済措置をとるなら、結局はそのように具体的に記録を見るしかなさそうだ。</p> <p>そうなると速報記録か公式記録の二択ではなく、速報と公式双方の摺合せという形に着地することになる。</p>
<p>遠藤</p> <p>布施谷</p> <p>田中</p> <p>遠藤</p> <p>田中</p> <p>遠藤</p>	<p>3. 具体的な成績処理と選考方法、再セレクションの詳細</p> <hr/> <p>DISQ の取り消し前後の記録を比較し、恣意性を一切排除した機械的な処理だけで通過とみなせる選手をピックアップした。その後残りの枠の選出方法について討議し、WA は諮問委員会による選考、MA は再セレクションが避けられないという結論に達した。</p> <p>その後 MA の再セレクションに関する詳細について討議した。</p> <hr/> <p>まずは人数が少なく、DISQ の影響が小さいと思われる WA について処理を検討したい。</p> <p>奈良女の中では、今回の結果は問題こそあれど凡そ妥当という風潮がある。速報記録のままでもよいのではないか。</p> <p>もし MA でタイム処理を行うのであれば、男女で取り扱いが大きく異なることになってしまう。それはあまりよくないのではないか。</p> <p>ひとまず記録を詳細に見ていこう。</p> <p>結果を見て、今回のセレで通過したとみて差し支えない人に関して通過させ、残りを推薦や再セレなどの方法で選出するということになるだろう。</p> <p>WA において、DISQ を取り消したとしても通過ラインの 5 位以内に入る非 DISQ 者は、</p> <p style="padding-left: 40px;">佐野 萌子(京都女子大学 3)</p> <p style="padding-left: 40px;">青島 千映里(京都女子大学 4)</p> <p style="padding-left: 40px;">岡本 ひなの(奈良女子大学 3)</p> <p>の 3 名である。</p> <p>その 3 名を通過とするにあたっては、成績処理において何らの恣意性も介在していない。純粋にタイムの速いもの順で並べただけであるから問題はないと言えるだろう。逆にその 3 名を落とす理由がどこにもないとも言える。</p> <p>WA の場合は残りが 3 枠であり、うち 1 枠はもともと推薦枠であるから確保す</p>

る。問題となるのは残り2枠の選考方法である。上記の3名以外について、DISQを取り消した結果に我々がタイム処理を施すと、何度も述べている恣意性の問題に抵触する。

松永
遠藤

しかし女子の再セレは日程面で特に厳しいだろう。
その通りである。資料でも触れたが、再セレは記録処理の観点で最も公正なものの、参加機会という面で著しい不公平を生みかねない。女子で実施するのはかなり厳しいというのに同意する。
そうすると、セレ当事者でもある学連幹事の恣意的判断を排除した選考方法は、諮問委員会による選考以外にないことになる。

田中
遠藤

2名も諮問委員会に任せることに問題はないのか。
通常のセレにおいても、選手権枠の数に応じて最大2つの推薦枠が設けられる。つまり諮問委員会が2名を選出する権限はもともと与えられているという解釈は可能かと思う。もちろんこの案には諮問委員の同意が必要である。

秋山

正直大変な選考ではあるが、諮問委員会で委員の承認が得られるならば問題ないだろう。

遠藤

それでは秋山さんには諮問委員会での提案をお願いしたい。
この2枠については、通常の推薦枠とは一線を画し、播磨中央セレでの結果のみを選考対象としたものである。推薦枠というよりは「諮問委員会による選出枠」とでも呼んだ方が混乱はないだろう。WAはDISQの影響が比較的小さかったとみれば、再セレを実施せずに当日の結果のみから選出しても、それは再セレの参加機会という中期的公正性とのバランスを考慮したときに致し方ないと思われる。

どうも幹事会が諦めて諮問委員会に投げたような策に見えるので残念だが、セレ当事者の判断を挟まないようにするには利害の及ばない諮問委員会に頼むよりほかない。

遠藤

ひとまずWAの対応はこれでよろしいか。正式には諮問委員会の返答を待つことになる。

全員

同意する。

遠藤

では次にMAの対応を検討したい。

WAと同様に通過とみなしてよい選手は

伴 広輝(京都大学3)

のみであることがわかる。残る枠としては8つあり、うち1つは推薦枠であるが、伴(京都大学3)以外の選手についてなんらかのタイム処理なしに順位付けを行うのが不可能であり、WAと同様に別の方法での選考が必要だ。

秋山	男子の場合は人数が多く、女子と同様の諮問委員会選考は困難である。再セレを行うか、タイム処理で人数を絞ったうえで諮問委員会選考にかけることになる。しかしこの人数を絞る過程が許されるのであれば最初からそれで選考すればよいからナンセンス。
遠藤	わかりきったことであるが、この人数の順位付けをクリーンに行うのであれば再セレが必須になってしまう。
秋山	再セレを行ったとして、その記録と播磨中央セレでの記録はどのようにすり合わせるのか。
遠藤	播磨中央セレの結果は伴(京都大学3)の通過確定以外には採用しにくいという理由で再セレを行うわけであるから、再セレの結果のみで選考するのが妥当だと考える。
田中	再セレを実施するのであれば、女子ほどではないにせよ参加できない人の存在を考慮する必要がある。
遠藤	夏季休暇であるからインターン・実習などの予定があることは大いに有りうる。ではひとまず再セレを行うとして、参加機会を公正にするためにはどのような案があるだろうか。例えば会議前に山本が、再セレを複数回実施するという案を出してくれた。ちなみに ICS のエントリー期限は 9/29 であるから、それまでに選考を完了しなければいけない。
松永	それに加えて冒頭で出たような再セレ対象者の条件を考えた方がよいだろう。
遠藤	播磨中央セレの記録だけでは順位を決めきれない選手の選考が目的の再セレであるから、とりあえずは播磨中央セレへの参加を要件としたい。つまり播磨中央セレに不参加の選手が再セレに参加することは本人の自由であるが、選考対象とはならない。
田中	エントリー期限までで再セレに利用できそうな大会は、9/18 の明石海峡公園でのスプリントと、9/23 の静岡大学での関東・北信越学連スプリントセレのみである。
遠藤	静大セレについては京大から参加困難との陳情が来ていた。セレクションとして指定することは難しいか。
松永	京大 OB の結婚式は 9/18 として陳情していたが、9/17 の誤りであったため、明石海峡再セレについては大学単位での不都合はないはずである。
遠藤	実行委員会による独自セレ開催の可能性はどうか。
秋山	日程調査を行っているが、多くの運営者を集めることは難しそうである。
遠藤	伴(京都大学3)からの陳情にもあるように、無理に実行委員会によるセレを行った場合に質の担保が難しい。特に今回の一件があつてからは余計に用心しな

松永 なければならないだろう。そうすると再セレに指定可能な大会は明石海峡だけということになるから、再セレを複数回実施するという解決策は実施できない。明石海峡再セレに参加できない人向けに、推薦枠を追加するというのはどうだろうか。

遠藤 通常の推薦枠も、セレに参加できなかった有力選手の救済の意図が含まれていると考えられる。セレをもう一度行うにあたって、再セレ用の推薦枠が1つ増えることは妥当のように思える。

田中 推薦枠を2つに増やした時に、播磨中央セレに不参加の選手が2名選出されて結局明石海峡再セレの救済策にならない可能性はないか。また、推薦選考の際に成績を参照される提出大会は、昨年度セレより後の大会から当該年度セレまでとされているが、2つの枠でこの期間に差を設けるのか。

遠藤 そこは問題である。明石海峡に参加できないことへの救済策という目的を達するためには、2枠のうち片方のみ播磨中央セレ参加を要件とするほかないか。また、スプリントセレ実施基準を厳密に適用するなら明石海峡再セレの推薦は明石海峡までを対象とするのが自然ではあるが諮問委員会としてはどうなのだろうか。

秋山 諮問委員会による推薦選考では、その選手が提出していない大会であっても競合選手が提出しているのであれば参照して比較するという手法をとっている。したがって2枠で提出大会の期間を差別化しても結局同じことになるのではないか。

遠藤 一度播磨中央セレまでの枠を選考し、その後選に漏れた人の中から明石海峡救済枠を選考するというのは無理か。

秋山 先に播磨中央セレ枠で討議された内容があるのに、それを全て忘れて救済枠の選考をするということが現実的にできるかどうか怪しい。提出期間は統一するのが望ましいのではないだろうか。

田中 ひとつ気づいたが、明石海峡再セレに参加して次点になるなどした選手が救済枠で選出される可能性はないのか。その場合再セレに参加できなかった人の救済にならない。

遠藤 確かにその通りである。救済枠の要件を明石海峡再セレに不参加としてしまうとそれは不参加の方が得という事態も招きかねないから、あくまで通常の推薦基準に従う枠として工夫が必要。静大セレはぎりぎりエントリーに間に合うのでこれを提出大会に含めば、明石海峡にどうしても参加できなかった人ががんばって静岡に行って結果を出し、推薦で有利に立つということができると思われる。

しかしこの場合京大が静大スプリントに参加しにくいという前提から阪大神大が有利になりかねないため、明石海峡に不参加のときのみ静大セレの成績を参照するという条件付けが必要かもしれない。京大としてはどう捉えるか。

松永 若干の不利ではあるが、ある程度は致し方ないと思う。

秋山 仮に静大セレを提出できるとして、それは必ず有利と言えるのだろうか。

遠藤 例えば静大セレに参加して悲惨な結果を出してしまった場合、それは推薦にはむしろ悪影響だから当人は提出しないだろう。しかし他の参加者が提出することは十分考えられ、そのとき諮問委員会によって静大セレ参加者の成績は比較されてしまう。そう考えると、提出大会が増えることはメリットでもあり、同時にリスクの面もはらんでいるのかもしれない。

松永 提出大会の期間を2枠で別にする話にも関連するが、推薦基準は過去1年間の成績について考慮するようになっている。もちろん新歓期やロングセレ周辺などスプリントの大会が少ない時期もあるが、1年間のうちで、大会参加に関する学校単位の不公平というのは無視されてきただけで何度もあったはずである。そうすると直近の2大会だけ殊更に参加機会の公正性を意識する必要性は薄いのではないだろうか。

遠藤 それならば、明石海峡再セレに参加した選手が静大セレに参加し、それを自己推薦の際に提出することはさほど問題ではないのかもしれない。また、明石海峡大会にどうしても参加できない選手が大量に発生する可能性はあまり高くないように思われる。京大として、少数の京大京女大会運営者が静大セレに参加するのは前週準備の際に大きな問題となるだろうか。

山本 本当に少数であれば何とかなるだろうとは思う。

遠藤 男子の推薦枠は2つとも静大セレを提出大会に含めるとしてよろしいか。

全員 同意する。

遠藤 それでは本日の決定事項全般(注1)を通じて、なにか問題点はないだろうか。

山本 選考後、けがなどの理由で選手権クラス出場権を返上する選手が出た際にはどのように対応するか。通常はセレ次点者の繰り上げで対応している。

遠藤 まず男子については再セレを行うことから、この繰り上げが妥当ではないだろうか。問題は女子で、次点を決めるにあたっては播磨中央セレの結果を用いるか、諮問委員会による選考の際に順位付けをしてもらってそれを利用するしかない。

秋山 次点者まで諮問委員会で決めるのは難しいように思う。

田中 諮問委員会による選考が行われた後であれば播磨中央セレの結果においてDISQの影響はさらに小さくなっているのではないか。

遠藤	それでは女子については、播磨中央セレの速報記録をもとにして通過者の次点者を決定し、それを補欠とすることでよいか。
全員	同意する。
遠藤	それでは本日の幹事会はここまでとする。本日の結論には諮問委員会への依頼が含まれることから、諮問委員会による承諾を待ってから幹事会による今回のセレクションへの対応策としたい。諮問委員会から反対意見や提案があれば再度幹事会による承認をとることとする。

(注1)

以下に臨時幹事会において決定した事項を整理する。

前提となる事項

JSSOM2007 に規定されていない[711 立入禁止ルート]の通過による失格は、実行委員会による処置とは異なり、本セレクションにおいては取り消さないものとする。

大会当日に調査依頼が提出されておらず、件の×印が通行禁止を表すという認識が参加者間で共有されていたとみなすことでその根拠とする。

また、本セレクションへの対応策決定にあたり、特に記録に直接関連する領域において、学連幹事の恣意的な判断が一切介在しないことを前提とした。

具体的な決定事項

【WA】

- 以下の者を、2017 年度インカレ・スプリント関西地区代表選手とする。
佐野 萌子 (京都女子大学3)
青島 千映里 (京都女子大学4)
岡本 ひなの (奈良女子大学3) 以上3名
- 残存代表選手枠3につき、1枠をスプリントセレ実施基準に定むところの推薦枠とし、残り2枠は本セレクション公式成績表に基づいて関西学連諮問委員会が選出する。
- 全代表選手選出後、速報記録におけるセレクション通過者の次点者を代表選手の補欠者とする。

【MA】

- 以下の者を、2017 年度インカレ・スプリント関西地区代表選手とする。
伴 広輝 (京都大学3) 以上1名
- 残存代表選手枠8につき、1枠をスプリントセレ実施基準に定むところの推薦枠とする。さらに6枠は、9月18日(月)に淡路島国営明石海峡公園において開催されるパークOツアーin 関西

2017・兵庫大会 MA クラスを再セレクションレースに指定し、その結果を以て選出する。再セレクションにやむを得ない事情で参加できない選手への救済策として、さらに1 枠は、播磨中央公園でのセレクションに参加していることを自己推薦提出の要件とした推薦枠とする。2 枠の推薦枠はいずれもスプリントセレ推薦基準に基づいて選考されるが、選考において成績を参照される大会は、昨年度スプリントセレより後の大会から、9月23日(土)に静岡大学静岡キャンパスにおいて開催される関東/北信越地区スプリントセレクションまでとする。

3. 全代表選手選出後、明石海峡公園での再セレクション通過者の次点者を代表選手の補欠者とする。

添付資料：

『臨時幹事会での検討事項要覧』

次頁より添付資料